

新しい子猫を迎えたら

一度検診を受けられることをお勧め致します。詳しい内容は次のようになります。

チェック事項

- ・ 食事をきちんと食べますか？
- ・ ウンチの色や形はどうですか？
- ・ 虫がついていそうですか？
- ・ 目やにや鼻水が多いですか？

1. 子猫用フードを用意してあげましょう

幼少期はどんな動物でも消化・吸収のよい、バランスのとれた食事が強い体をつくれます。フードは必ず子猫用の記載のあるものにしてあげてください。歯の生え時期によっては少しふやかす方が良い場合があります。毎食新しいものに変えてください。

2. 検便をしましょう

お腹の状態や、寄生虫・細菌の有無などが分かります。幼少期の下痢は命に関わる場合がありますので、甘く見ると痛い目にあうことがあります。お母さんから寄生虫をもらってくることもあります。まずは状態を把握してあげましょう。

3. ノミ予防をしてあげましょう

ゴマ粒大の虫や黒い砂上のぶつぶつがあるときはノミがいるかもしれません。滴下タイプのノミ・ダニ駆除薬があり、ノミの駆除は簡単で、動物病院専売タイプの薬だと、24時間で解決します。先住動物やヒトにも影響がでますので、早めに薬をつけてあげましょう。予防的にもお勧めです。

4. ウイルス検査をしましょう

ごくまれに、不幸にも生まれもって猫エイズや猫白血病などの病気を持っていることがあります（屋外で生まれた子は確率が高くなる）。これらの病気は寿命や生活の質に大きな影響を及ぼすことがあり、病気になったときに判明しても手遅れ、という事態を起こしてしまうことがあります。これらの病気の有無は、予め知っておいたほうがよいと思います。検査は10分位で終わります。

5. ワクチンを打ってあげましょう

ワクチンで安全な抵抗力をしっかりとつけてあげましょう。通常生まれた年には、生後2ヶ月頃と3ヶ月頃の2回のワクチン接種が推奨されます。お外に出す場合は、白血病のワクチン予防もした方がよいと思います。予防注射は健康状態に問題がない時の、なるべく午前中に受けるようにしてください。